

合併趣意書

2022年4月にそれぞれの生協の職域である大阪市立大学と大阪府立大学が統合され、大阪公立大学（仮称）が誕生します。

わたしたち、大阪市立大学生生活協同組合と大阪府立大学生生活協同組合の各理事会は、大阪公立大学（仮称）全キャンパスでの学生支援と福利厚生にかかるサービスの向上をはかり、もって大阪公立大学（仮称）の発展に寄与するため、2つの生協の合併を提案します。

各生協の概要

(1) 大阪市立大学生生活協同組合

大阪市立大学生生活協同組合は1951年9月に大阪市立大学学生協同組合として創立され、その後の改組を経て1962年10月に法人登記されました。

創立当初は杉本キャンパス内に事業所を置き運営していましたが、1968年2月に阿倍野キャンパス内医学部第二新館棟内に事業所を開設し、二事業所での運営を行っています。

2019年度の実績は、供給高12億1,390万円、出資金2億8,031万円、組合員数11,760人でした。

(2) 大阪府立大学生生活協同組合

大阪府立大学生生活協同組合は1962年4月に創立されました。

創立当初は中百舌鳥キャンパスに事業所を置き運営していましたが、2005年4月に羽曳野キャンパス内に、2009年4月にりんくうキャンパス内にそれぞれ事業所を設置し三事業所での運営を行っています。

2019年度の実績は、供給高8億6,988万円、出資金1億6,260万円、組合員数8,349人でした。

合併の趣意

これまで大阪市立大学生生活協同組合と大阪府立大学生生活協同組合はそれぞれの組合員ならびに職域への貢献をすべく、事業と活動を進めてきました。

2022年4月、それぞれの職域である両大学が統合され大阪公立大学（仮称）が設立されることから、今後も新大学および新大学に集う皆さんへの貢献を果たすべく、両生協の組合員・役職員が手を取り合い、組織合併をもって「新しい大学生協」を作り上げたいと考えています。

大阪公立大学（仮称）は来る2025年度の森之宮新キャンパス設置に向けて、さらなる発展を遂げるものと確信します。私たち大学生協も、統合により事業規模の拡大と事業経営の効率化により、新大学の変化に対応し、新大学にとってなくてはならない大学生協を目指し

ます。

合併の要旨

この合併は両生協の組合員の権利や財産を損なうものではない対等な合併です。両生協で行っている組合員サービスや店舗も今までと同じようにご利用頂くことができます。

その上、合併する事で両生協が同じ組織になりますから、組合員サービスをご利用頂くことができるキャンパスが今まで以上に増える事になります。

合併日は新大学の統合と同じ2022年4月1日を目指します。

新大学生協で目指すこと

まずは新大学の発展に寄与できるよう、私たちのあり方を創意工夫し、そのときどきの状況に合わせて進化できるようにならないといけません。

新キャンパスでの役割発揮はもちろん、既存のキャンパスにおいてもそれぞれの状況や変化に合わせて、適切に役割発揮ができるよう、経営的な側面も含めて運営の工夫が必要です。

また、大学と大学生協の関係性も新たな局面が期待されます。新大学・新大学構成員の皆さんが新大学生協を利用し、そのことにより得られる剰余を適切に新大学に還元し、学生支援・福利厚生に資するという学内循環型経済を目指します。その学内循環型経済の中に、新大学の学生が活躍できる場を作り、雇用と共助の達成感を提供します。

新大学にとって、学生の力は宝です。新大学生協にとって、学生組合員の力は宝です。この宝がとてつもない力を発揮し、魅力ある新大学・新大学生協ができあがると確信しています。

そのためにも、新大学生協は何ができるのかをしっかりと新大学・新大学構成員に発信し続けます。

新大学生協のビジョン

新大学生協を取り巻く社会・経済・大学環境は、今後めまぐるしく変化していくものと考えられます。

そのような環境の中でも、「新大学・新大学構成員に役立つ生協」として存在できるよう、以下の新大学生協ビジョンを掲げ、役職員一同努力して参ります。

- ① 大学コミュニティの一員として、新大学・新大学構成員に貢献する新大学生協

- ② 今までにない新大学との包括的な協力関係を元に役割発揮する新大学生協
- ③ 新大学の学生が共助の考えを元に新大学内で活躍できる場を提供する新大学生協
- ④ 新大学・学生・地域のコミュニケーションの結節点となる新大学生協
- ⑤ 健全な運営をおこない自立した組織であり続ける新大学生協
- ⑥ 働く職員が新大学に役立つ仕事をしていることに誇りを持つ新大学生協

2021年3月

大阪市立大学生協同組合

理事会

大阪府立大学生協同組合

理事会